

オンライン学習支援システムを活用しよう

学生の時間外学習を支援しよう

■ 高知大学総合教育センター・大学教育創造部門

通常講義（1学期間 15 回授業で 2 単位）では、授業時間を含み 90 時間の学習に対して単位が与えられるという基準がありました。これを「単位の実質化」と言います。授業時間は週休 2 日制に伴い 90 分となりましたが、1 回の授業で 2 時間とカウントしています。従って、授業時間外に少なくとも 60 時間の学習が求められます。大綱化以降はこれを目安にすることとなっています。

一方で、現在の履修登録単位数の制限があるのは、これを基準としていることから実質的にはこの基準（90 時間で 2 単位）が生きているといえます。残念ながら履修単位数の制限を設けた以降も、「単位の実質化」の基準に届かない授業が多く残っています。そのため、「高知大学の新生は暇をもてあまして」という声が、高等学校の教員から聞こえてきます。授業料を払っている

学生や保護者は、授業担当教員に対して単位の実質化に見合った教育の質と量の提供を当然求めるでしょう。

学外から自由に閲覧できる Web ページで資料を公開し、時間外の学生の学習を支援する試みを早くから実践している教員もおられます。人文学部では、独自のシステムを導入して先進的な取り組みを行っていますが、残念ながら全てのサービスを受けるためには、教員と学生の両方が人文学部所属である必要があります。総合教育センターでは、人文学部のシステムには及びませんが、全学の教員と学生が自由に使うことができるシステム、「オンライン学習支援システム」(OLSS)を導入しました。機能は少ないながらも、教員の工夫次第で充分役に立つのではないかと思います。どうぞおためしください。



●授業時間中に小テストを実施しよう

演習、実習授業などで毎回小テストを課している教員も多いのでは？これがオンラインシステムで実施可能です。マークシート形式の設問の場合、クリック一つで採点まで自動で行います（ただし模範解答を作成する必要有り）。

●時間外の授業補完に使ってみよう

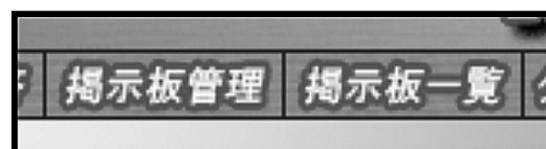
学外からも 24 時間接続可能なため、練習問題を授業時間外に課して予習・復習の助けにすることができます。授業内容の理解度を評価したり十分時間がとれなかった部分の補完に利用することも可能です。

●採点結果をダウンロードしよう

アンケートシステム同様、採点結果をダウンロードできます。誤答の多かった問題の抽出や習熟度が不十分な受講生の抽出に利用できます。

5. 電子掲示板を活用しよう！

作成したグループ毎に、電子掲示板を作成することが可能です。教員からアナウンスを流すのみではなく、受講生の交流の場としても利用できます。ファイル添付機能を使って課題を提出させることも可能です。この場合、受講生同士が作成した課題を相互に見ることができるため、触発される場合もあります。受講生同士で添削させたり、グループ課題を掲示板で仕上げたりすることも可能です。



6. パスワード変更をさせよう！

教員も学生も全学認証 ID でログインするシステムであるため、パスワードの管理が重要です。2008 年度より、入学したときに渡されたパスワードを長期間使っている学生は、ログインできなくなります。時々パスワードを変更することを指導しましょう。パス

ワードの変更方法は「情報処理」教科書に載っています。

●説明会申し込み

総合教育センターでは、オンライン学習支援システムのオンラインマニュアルを公開しています。

教員用

<http://www.cc.kochi-u.ac.jp/~tatukawa/OLLS4T.html>

学生用

<http://www.cc.kochi-u.ac.jp/~tatukawa/OLLS4S.html>

また、説明会等、随時開催いたします。お申し込みは以下まで。

申込先：学務課総務グループ
(gm04@kochi-u.ac.jp)

●Web 英語教材申し込み

Web 英語教材 ALC NetAcademy 2

TOEIC 対応のリスニング英語教材が利用可能です。高知大学の学生で全学認証 ID を取得している新生、3 年次編入生、大学院入学生は毎年 4 月に登録を行います（在来生は登録済み）。ID とパスワードが、s ドメインのメールアドレス宛に送られます（****@s.kochi-u.ac.jp）。4 月以降に全学認証 ID を取得した学生、大学院生、教職員で利用を希望される方、授業で利用される教員（サブ管理者として受講生の学習履歴を見る人）は申し込みが必要です。

申込先：学務課修学支援グループ・共通教育担当
(gm06@kochi-u.ac.jp)

●グループワークで利用しよう

オンライン学習支援システムから、コミュニケーションボードシステムに入れるようになります。現在システム開発中!! 試行の後、皆さんにご利用いただけるようになります。

1. ログインしよう！

全学認証 ID とパスワードでログインできます。
今すぐログインしてみましょう。

<https://olss.cc.kochi-u.ac.jp/admin/Login> (教員用)

<https://olss.cc.kochi-u.ac.jp/Login> (学生用)



2. グループをつくろう！

オンライン学習支援システムを活用するためには“グループ”を作成する必要があります。グループを作成するには以下の方法があります。

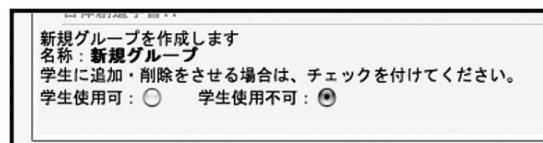


●学科・学年名簿から選ぶ

4月1日現在の在学名簿一覧からメンバーを抽出することが可能です。ゼミのメンバー、研究室のメンバー、複数の教員、所属・学年の異なる学生が混在したグループも作成できます。

●受講生に申請させよう

(グループ管理)の(新規作成)で、「学生に追加・削除をさせる場合は、チェックを付けてください」のところ(学生使用可)を選択すると、学生の申告によってグループメンバーを登録することができます。



●履修登録情報から作成しよう

履修登録完了後は授業題目からグループを作成することができます。科目名や授業コードから検索可能です。同一科目名で複数開講科目は注意してください。

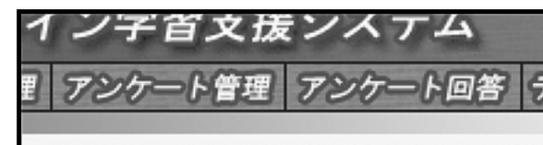
グループメンバーの管理
新規グループ

次の4つの方法でメンバーを選択できます。

1. 教員一覧から選択:
2. 「学科」「学年」毎の学生一覧から選択:
3. 「授業コード」から選択: ~
4. 「授業名称」から選択:

3. アンケート機能を使おう！

グループに対してアンケートの実施ができます。自動集計され、エクセルのファイルでダウンロードできます。



●いつでもどこでも使用可能です

回答用紙は必要ないので、設定していればいつでも実施可能です。授業時間内だけ回答する設定も、時間外に回答する設定も可能です。学外からアンケートの実施、回答もできます。

●テンプレートを使ってアンケートを実施しよう

共通教育、情報教育委員会や総合教育センターで作成したアンケートはテンプレートとして利用可能です。このテンプレートをそのまま使用する場合は回答期間等の設定のみですぐに実施可能です。

●出席確認に使ってみよう

アンケートシステムなのでアンケートにのみ使うという決まりはありません。教員の創意工夫で何にでも使ってください。

学籍番号や氏名を回答させることで、出欠確認にも利用できます。質問やクイズなどと組み合わせて回答させるのもアクティブラーニングとして効果的です。

●事前アンケートを実施しよう

授業開始の際にアンケートを実施してみましょう。シラバスでの約束事(授業方法・評価方法など)は了承しているか? 受講に際して必要な能力をどれくらい有しているか? と思っているか? この授業に何を期待しているか? など質問してみましょう。

●授業評価アンケートを実施しよう

テンプレートのフォーマットに一手加えて自分の授

業に適した内容について質問してみましょう。

●授業の感想を聞いてみよう

毎回授業の感想をカードで聞いている教員も多いのではないのでしょうか。フィードバックの際は切り貼りしてコピーしたり自分で打ち直したり……結構大変です。アンケートシステムを使えば電子化されるので、Copy&Pasteで資料作成も簡単。授業でシステムにログインして集計結果を直接見せるのも効果的です。

●アンケート実施対象者にメールを出そう

アンケートの実施対象者にメールを送る機能がついています。これを使って対象グループメンバーにメールを出すことができます。メールアドレスは初期値としてグループウェア(sドメイン)のメールアドレスが登録されていますが、送信先を自分の携帯等に変更することも可能です。

●追跡調査を行ってみよう

担当授業で養成しようとする能力が受講生にとって身についていると実感されているか、追跡調査してみましょう。授業評価アンケートで満足度を聞くより役立つ情報が得られること間違いなし! アンケート実施教員は集計結果をエクセルのファイルでダウンロードできます。学籍コードを回答させておけば、個人毎の表に加工して受講生自身の変化を視覚化でき、成長が分かり易くなります。これを返してあげるのもやる気↑に効果的です。

4. テスト機能を使おう

アンケート機能と全く同じ方法でテストの実施が可能です。ログイン情報から解答者氏名が付加されるため、学籍番号等を書かせなくてもだれが解答したかわかる点がアンケートシステムと異なります(不正受験がしにくい)。

